

「JR貨物による輸送品質改善アクションプラン」(案)について

平成19年 6月 26日  
日本貨物鉄道株式会社



エコレールマーク

## アクションプラン策定の前提となる課題

本アクションプランにおいては、「JR貨物による輸送品質改善・更なる役割発揮懇談会」における業界ヒアリング等を基に、以下のようなお客様のニーズを抽出し、それぞれ解決策として実施すべき事柄を検討した。

- ・ お客様のニーズを受け止めるための体制整備
- ・ 大型コンテナ及び温度管理コンテナ利用拡大のニーズ
- ・ リードタイム改善のニーズ
- ・ 輸送力、輸送枠に対するニーズ
- ・ 輸送障害時の情報提供及び対応に関するニーズ

### お客様のニーズを反映するための取り組み

- ・ お客様対応の強化
- ・ お客様の輸送ニーズについての課題と取り組み

### 輸送枠を取りやすくする仕組み作り

- ・ ニーズを反映した輸送計画の実施
- ・ 弾力的な輸送システム・予約システムの構築

### 安全・安定輸送の実現

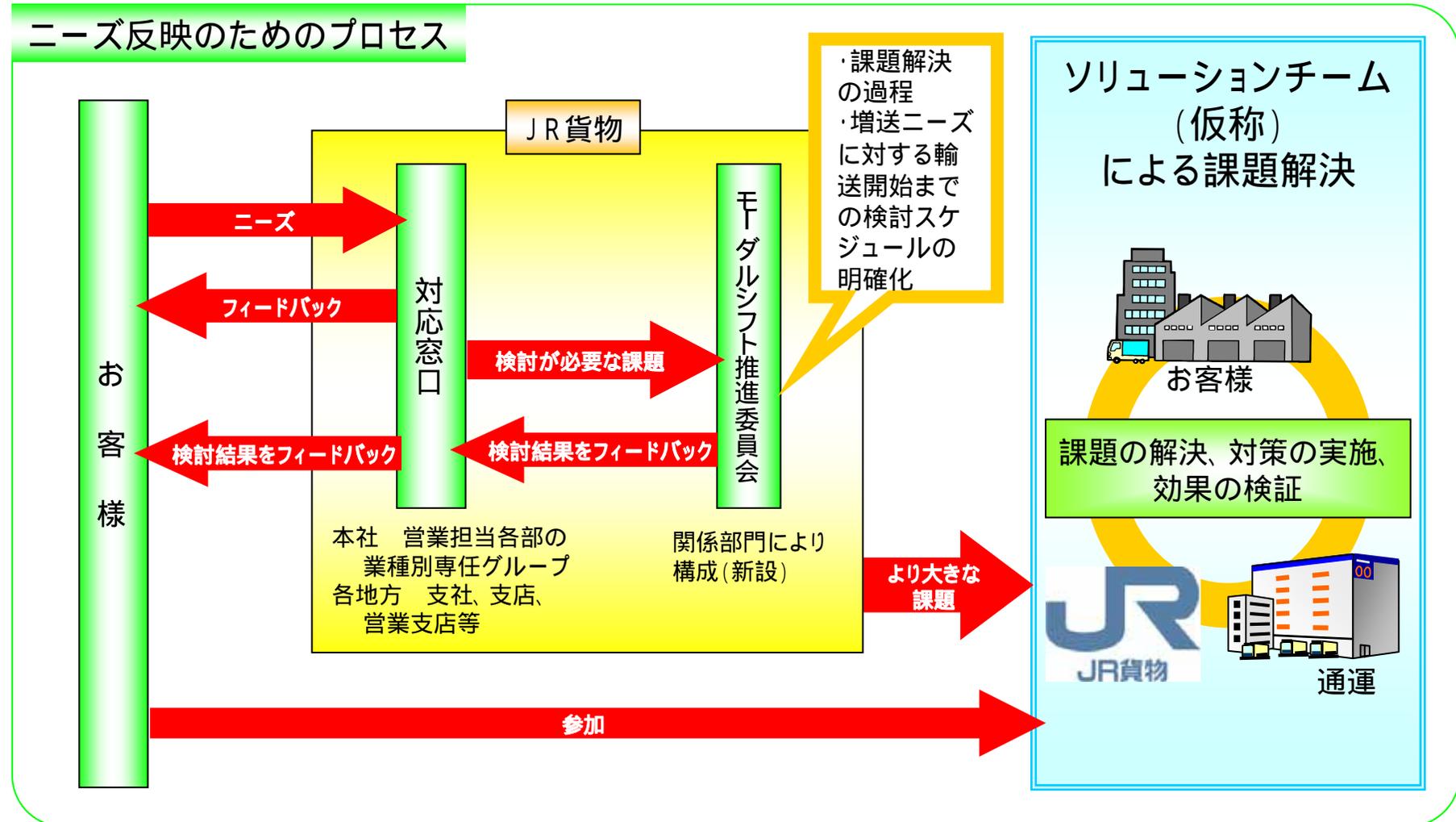
- (輸送障害時における対策)
- ・ 迅速、的確な情報連絡体制の整備
  - ・ 運転再開後における列車遅延拡大の防止
  - ・ 鉄道輸送不能の場合の代替輸送体制の整備

# 1. お客様のニーズ反映のための取り組み



# 1. お客様対応の強化

お客様のニーズを反映するための仕組みを構築します。

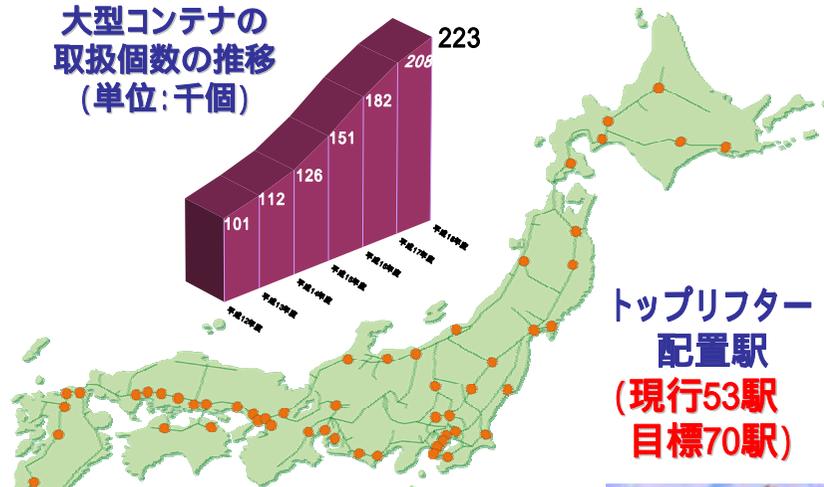


## 2. 大型コンテナネットワークの拡大

大型トラックからのシフトが容易で、荷役の効率性に優れた31ftコンテナ等の輸送を拡大するための条件整備を行ないます。

トップリフター(\*)の配置駅拡大を図ります。

大型コンテナの  
取扱個数の推移  
(単位:千個)



(\*)トップリフター: コンテナ上部を吊り上げ、移動したり積み上げたりする車両で、通常のフォークリフトでは不可能な大型コンテナの積み下ろしが可能

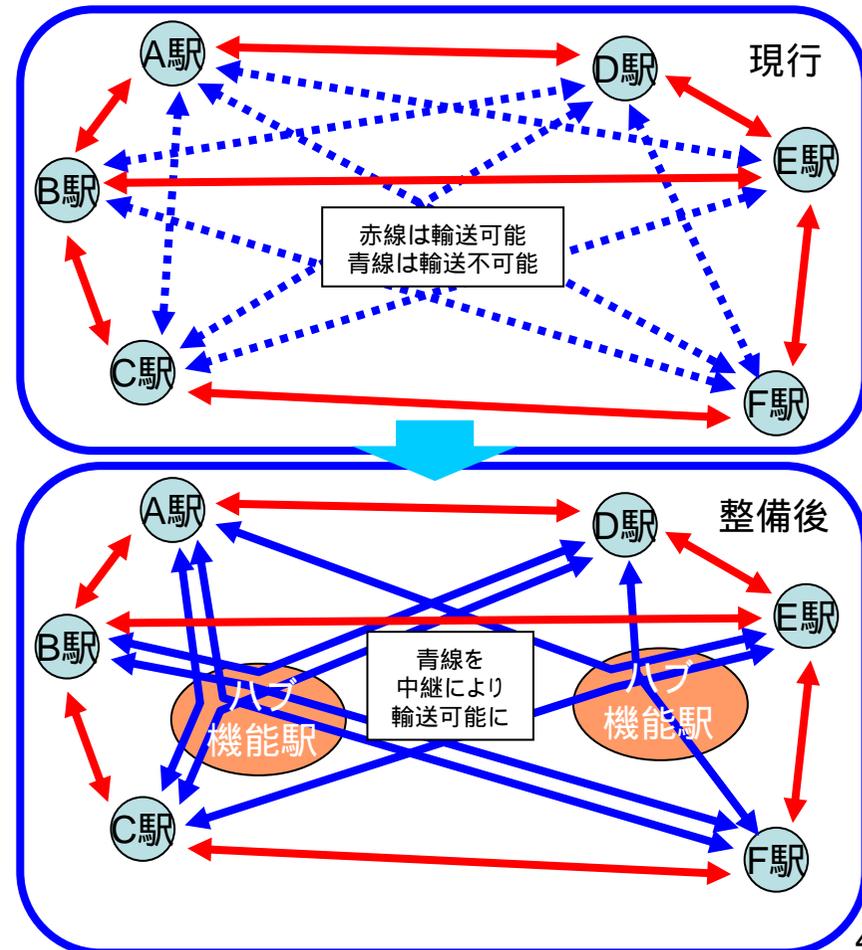


輸送可能ルート、輸送日数をパンフレット等でわかりやすくご案内します。

利用運送事業者等との連携により、31ft私有コンテナの増備及び運用の効率化のための取り組みを行います。

従来直通列車が運行される区間に限定されている大型コンテナ輸送を、ハブ機能駅で中継を行なうことで行先を大幅に拡大します。

ハブ機能を持つ主要駅での中継作業・体制整備

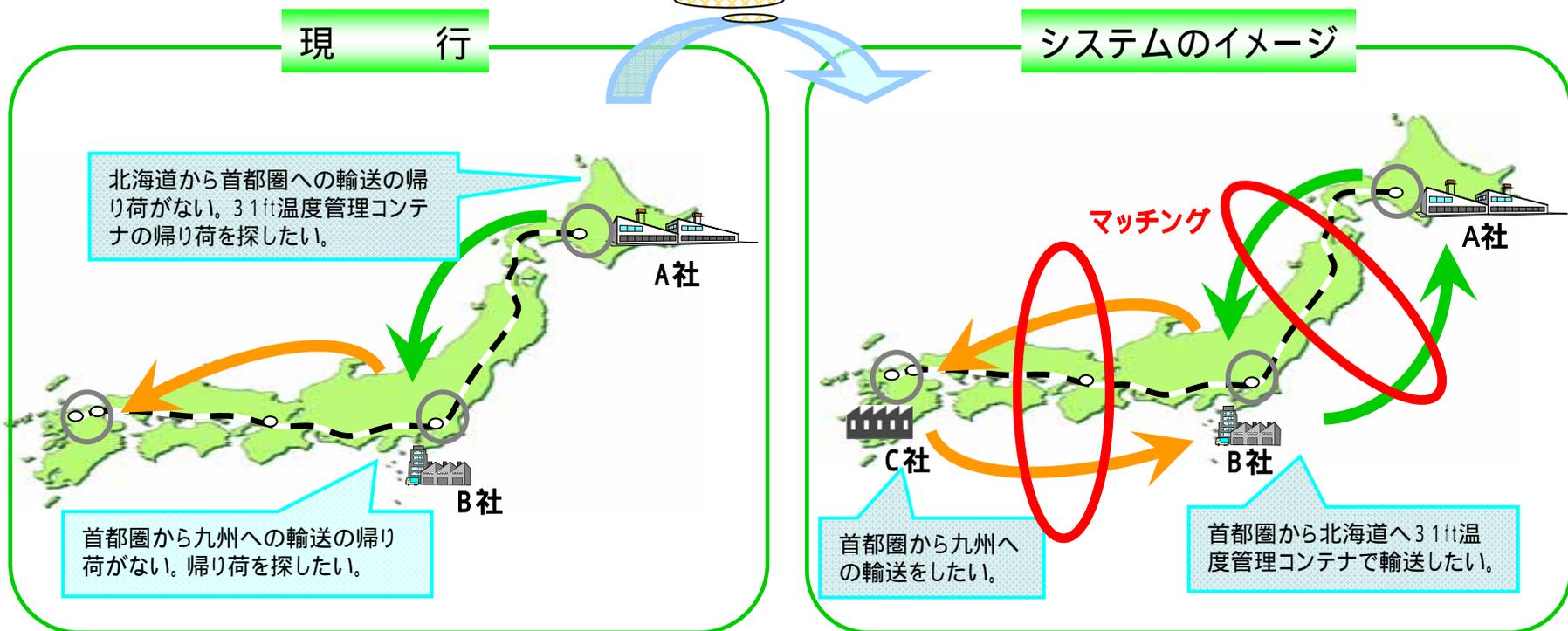


### 3. 温度管理コンテナ ニーズへの対応

利用運送事業者等との連携により、温度管理コンテナ等の帰り荷確保による運用効率の向上に取り組んでまいります。

帰り荷情報登録システム(仮称)の構築  
<空回送情報の公表>

( ) (社) 全国通運連盟の検討に積極的に参画してまいります。

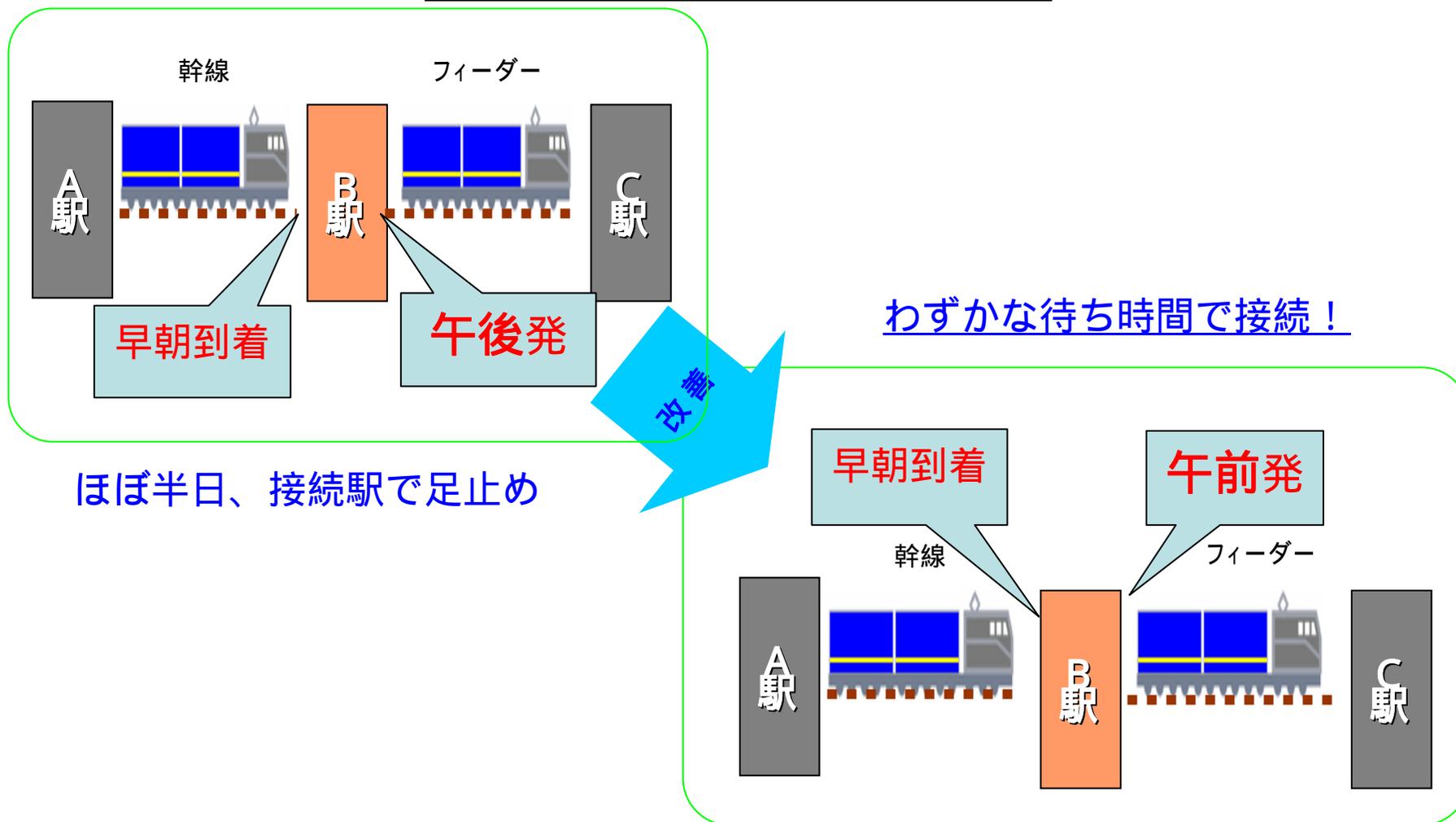


・大型コンテナの空回送情報も、帰り荷情報登録システムで取扱うことを検討

## 4. リードタイム等の改善

幹線列車とフィーダー列車の接続を改善することにより、翌日配送圏のエリアの拡大を進めます。

接続を改善することにより、リードタイムを短縮



## 5. コンテナ品質の改善 等

濡損、破損、荷崩れなど荷物事故の防止に向けた取り組みを実施します。

- ・新製コンテナの計画投入(5,000個/年)
- ・老朽コンテナのリニューアル、内張り板の交換
- ・コンテナ積載方法の改善
- ・養生方法改善などを検討する委員会の充実

私有コンテナ登録の改善を行ないます。

- ・登録に必要な期間の短縮
- ・登録過程における進捗状況のご案内を徹底

エコレールマークの普及に努めます。

- ・(社)鉄道貨物協会等と連携しながら、普及・啓発を主な目的とした運動を展開

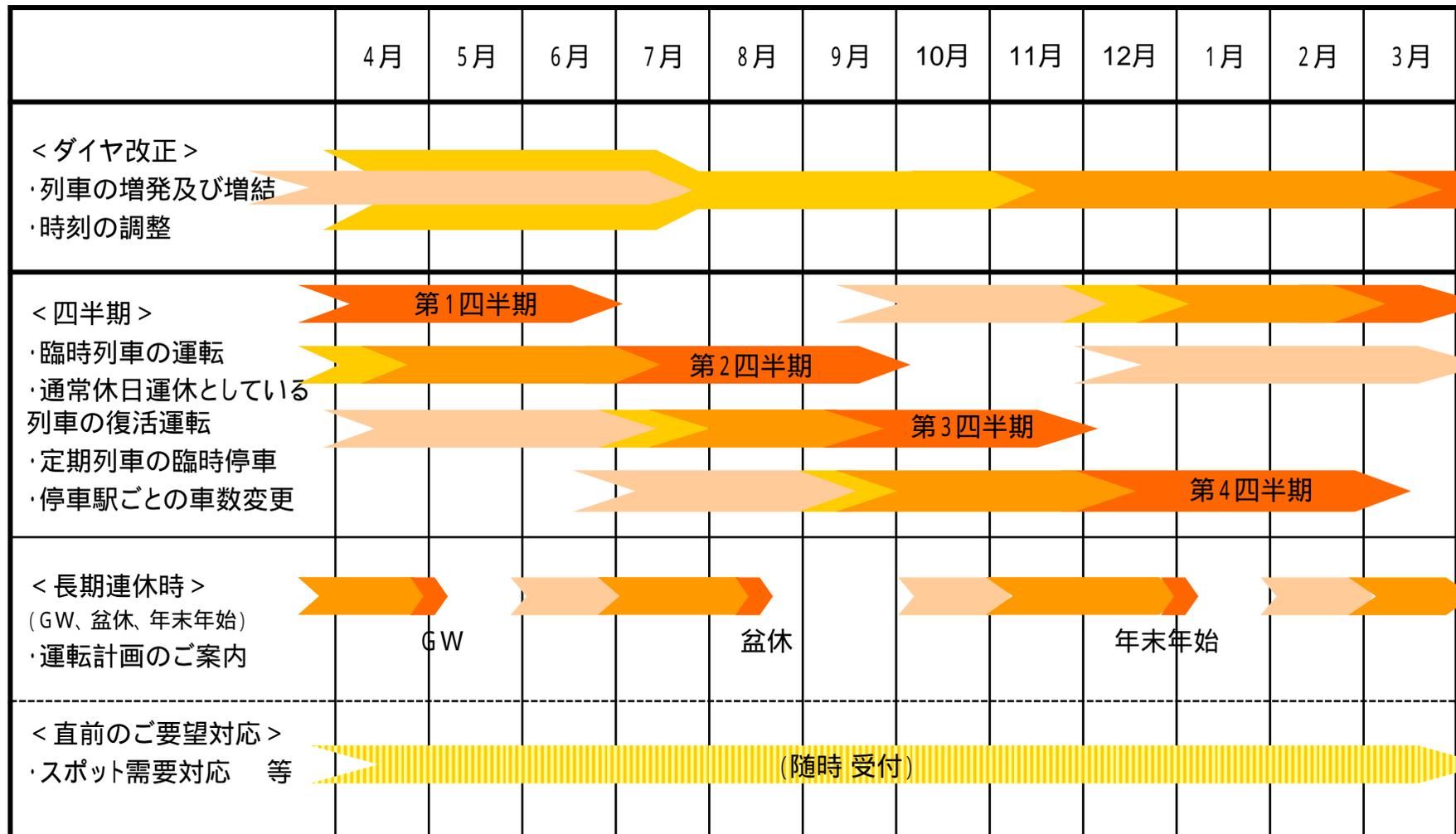


## 2. 輸送枠を取りやすくする仕組み作り



# 1. ニーズを反映した輸送計画の実施

ニーズの反映は、概ね次のスケジュールにより実施します。



(凡例) お客様からのニーズ調査 検討・調整 お客様へのご案内 実施

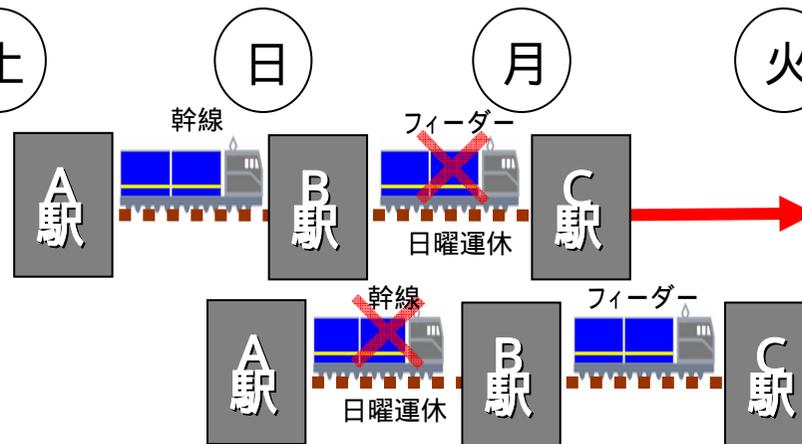
## 2 . IT-FRENS&TRACEシステムによる既存輸送力の有効活用

土休日列車の輸送力を有効活用するため、「IT-FRENS&TRACE」システムの自動枠調整機能の十分な活用等により、輸送の平準化を図り、平日においても輸送枠を取得しやすい環境を構築します。

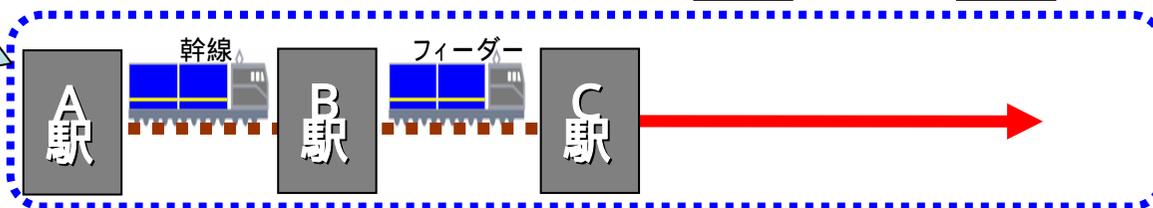
### 「曜日別輸送ルート」の設定

集貨 (金) (土) (日) (月) (火) 配達

右のような輸送は、  
現行システム上は  
予約できない

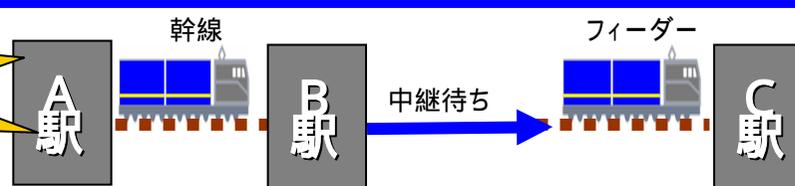


そのため、土日の  
幹線輸送力を活用  
しきれていない



曜日運休にかかる予約は、翌運転日の列車を予約できるようにシステム変更

オフピーク輸送力の  
活用



輸送の  
チャンスが  
週5回から  
週6回に

20%アップ

### 3.トラック代行を活用したフィーダー隘路区間等の解消

フィーダー隘路区間の解消に向けて、代行トラックを活用した弾力性のあるシステムの構築を図ります。

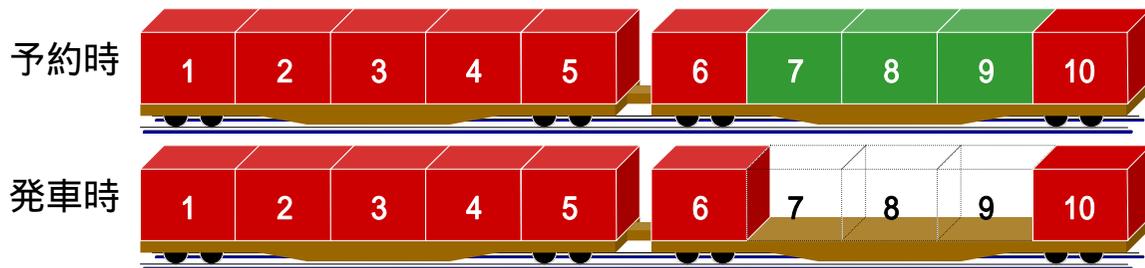
今秋、福岡～鳥栖間で実施します。

他区間においても季節等に応じた  
需要を基に必要性を検証します  
具体的なルールについては今後  
検討を行います



## 4. ピーク時の幹線区間の輸送力生み出し

見込み予約解消による実質的な輸送力の拡大の取り組みを強化してまいります。

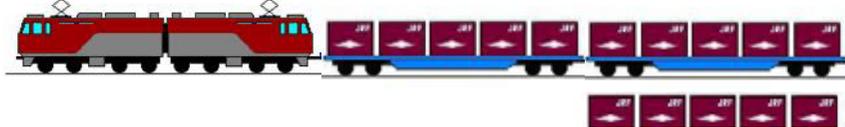


見込み予約、未使用指定枠による直前キャンセルの解消に取り組みます。

「首都圏における近接駅間トラック代行輸送」の整備を行ないます。

(一例)

横浜羽沢 福岡(夕)行き 5個オーバー

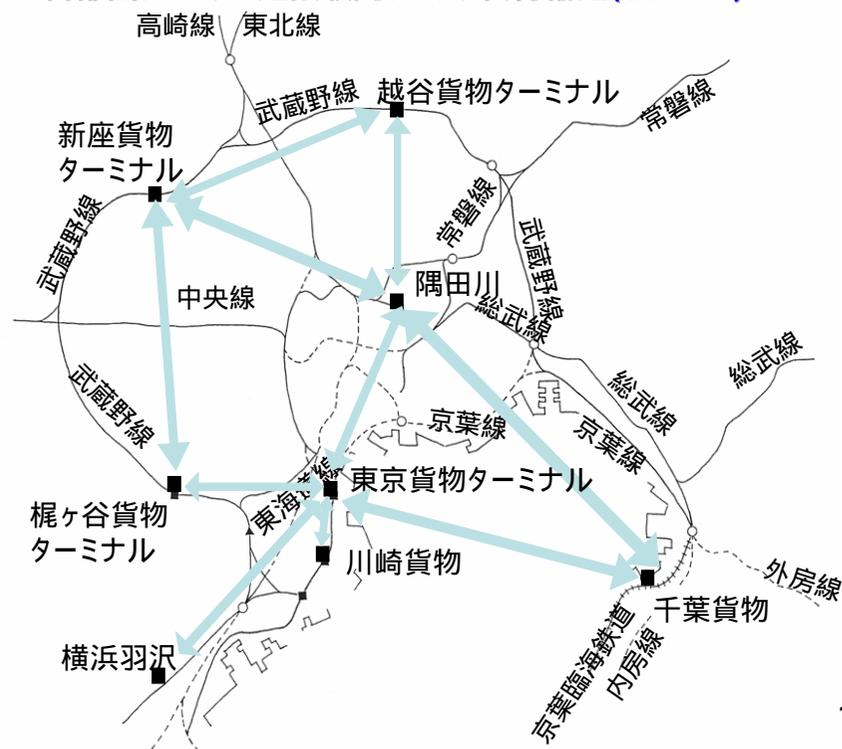


東京(夕) 福岡(夕)行き 5個空きあり



横浜羽沢駅で福岡(夕)駅行き輸送力が不足していても東京(夕)駅では福岡(夕)駅行きの輸送力に余裕がある場合、トラック代行輸送を行なって、東京(夕)駅からの鉄道輸送を行います。

首都圏における近接駅間トラック代行輸送(イメージ)



### 3. 安全・安定輸送の実現 (輸送障害時における対策)

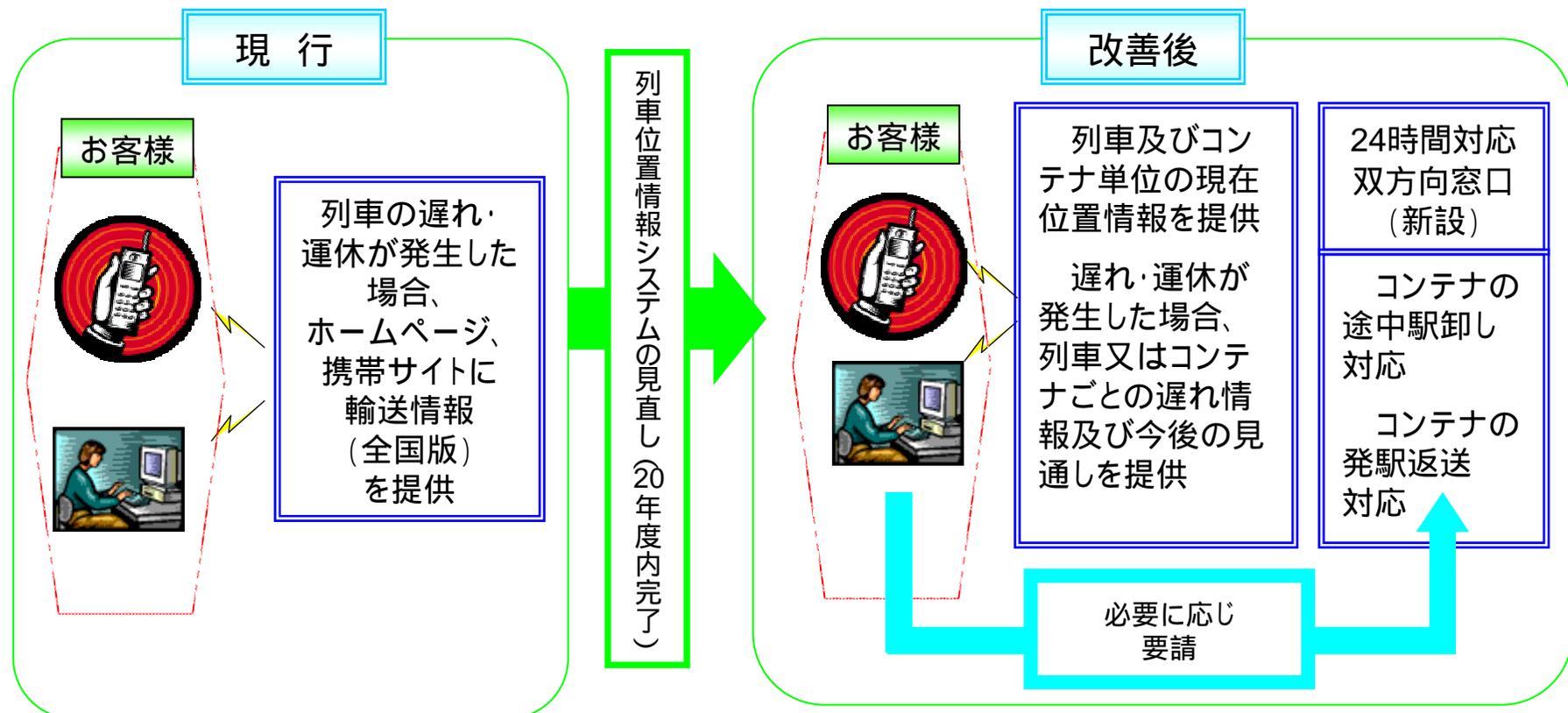


# 1. 迅速、的確な情報連絡体制の整備

情報伝達の迅速化と組織の強化を行なっています。

- 輸送情報統括責任者の指定
- 異常時業務支援グループの設置

お客様への情報提供方法を改善します。



## 2. 運転再開後における列車遅延拡大の防止

旅客会社との連携を強化するとともに、指令体制を強化します。

- ・旅客鉄道会社との密接な連携により異常時の運転整理を実施
- ・全国に管理職の「指令室長」の配置



主要駅に予備の車両を配置します。

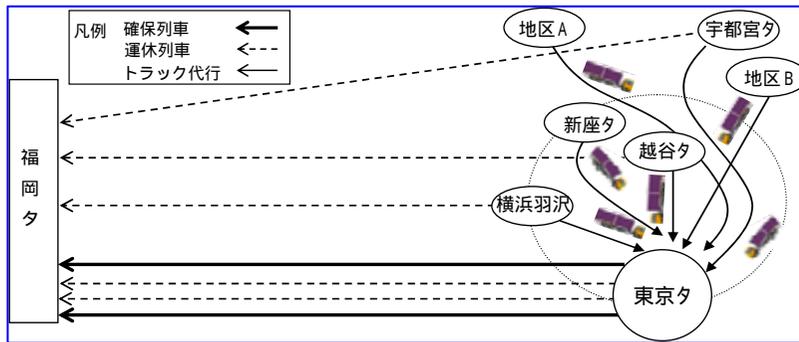
- ・速達性の使命を持つ列車の折り返し遅延の防止



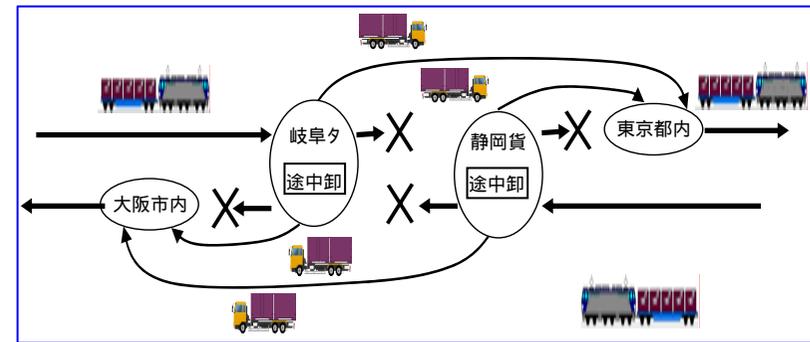
### 3. 代替輸送体制の整備

トラックを利用した代替輸送体制の整備として、(社)全国通運連盟と共同で実証実験を行ないます。

首都圏における衛星駅から拠点駅までの代行輸送(イメージ)



東海道線における途中駅取卸し及び代行輸送(イメージ)



コンテナ集配車以外のトレーラー・シャーシを活用した代替輸送の検討を進めてまいります。



高速フェリー(舞鶴～小樽)を利用した輸送を実施します。(本年秋～)

イメージ

